

1. 評価結果概要表

平成 21 年 3 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	0176400372		
法人名	株式会社 マルベリー		
事業所名	グループホーム むくもりの家		
所在地	留萌市開運町3丁目8-3 (電話) 0164-42-5477		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】 (20年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 17人 非常勤 0 人 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5階建ての 2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円
その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000 円) 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円
	夕食 円 おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円

(4) 利用者の概要 (11月14日現在)

利用者人数	18 名 男性 5 名 女性 13 名
要介護1	4 名 要介護2 3 名
要介護3	7 名 要介護4 3 名
要介護5	1 名 要支援2 0 名
年齢	平均 84 歳 最低 61 歳 最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	留萌記念病院 川上内科病院 江戸歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

留萌市中心の交通の便の良い、商店街の一角に事業所が開設されている。5階建ての建物の2～3階に事業所があり、1階はディサービス、4～5階がシルバーマンションが併設されている。特にディサービスを活用する事で、「生活リハビリ」中心の自立支援的なケアが行われ、全フロアとの双方向的な交流の輪も広がり日々の暮らしを更に豊かにしている。基本理念である「利用者が自由にのんびりと暮らせる」を基に、管理者を中心に全職員が利用者一人ひとりのペースを尊重し、安心感ある豊かな暮らしをサポートしている。今後は地域密着型サービスの役割を担うためにも、利用者が地域の一人として暮らし続けるための基盤作りが期待される事業所である。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である、玄関まわりの配慮・食事(昼食)を職員と共にする・緊急時への対応の定期的受講・市町村との関わりは、継続的課題として検討している状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はじめ職員は評価の意義を理解しており、活かすべく努力をしている。2ユニットごとに職員個々に記載し、管理者がまとめ、スタッフ会議などで共有を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年2回目の運営推進会議が開催され、事業所全般の体制の説明、事業所のあり方などをテーマに話し合いが持たれたが、地域密着型サービス向上に活かすまでに至っていない。メンバー一人ひとりに地域密着型グループホームの機能と役割に対する理解を深めて頂けるよう働きかけ、運営推進会議の定期的な開催に結びつけ、活発な意見交換を促し事業所運営に活かす取り組みを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示している。家族来訪時に要望・意見を伺える関係を築くように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内会行事に利用者に参加することもあるが、事業所の立地が商店・飲食店街の中心部にある為、周知されるまでに至っていない。運営推進会議の議題として取り上げ、メンバーである町内会長や地元の民生委員や有識者に相談し知恵を拝借しながら、利用者が地域に一人として人々との関わりを持ち、暮らし続けるための基盤作りを期待している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は開設当初に職員全員で検討し作成されたもので「利用者が自由にのんびりと暮らせる」ことを掲げ、地域との関係性を重視したサービスを目指した、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に意識できる様にユニットごとに基本理念を掲示している。サービスの根底になる理念について、全職員での共有の必要性や重要性を認識し、実践に繋げ取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事の夏祭り、敬老会、クリスマスなどに参加している。また、地域の保育園児との交流やボランティアの受け入れなど、積極的に取り組み年々繋がりを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめ職員は評価の意義を理解しており、活かすべく努力をしている。2ユニットごとに職員個々に記載し、管理者がまとめ、スタッフ会議などで共有を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年2回目の運営推進会議が開催され、事業所全般の体制の説明、事業所のあり方などをテーマに話し合いが持たれたが、地域密着型サービス向上に活かすまでに至っていない。	○	メンバー一人ひとりに地域密着型グループホームの機能と役割に対する理解を深めて頂けるよう働きかけ、運営推進委員会の定期的な開催に結びつけ、活発な意見交換を促し事業所運営に活かす取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは利用者の実情に合わせた相談や事業所の諸問題に関わる相談で連携を図りながら、課題解決に向けた取り組みが行なわれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に「ぬくもり通信」を発行し、利用者の生活状況や事業所行事など報告している。家族の来訪時や電話の際にも心身の状態や生活の様子など伝え、特変事には電話で連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示している。家族来訪時に要望・意見を伺える関係を築くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとっての馴染みの関係での対応を重視し、職員の異動はほとんど行なっていないが、やむを得ず離職する場合は、利用者にも心理的なダメージを与えないよう全職員でフォローをし、不安を防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修受講の重要性を理解しており、職員個々に応じた段階的外部研修の体制を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽・札幌・旭川地区の同業者との交流体験研修を実施し、情報交換を行ないサービスの質の向上に取り組んでいる。新年度より計画的に実施できる体制作りを、協働的に取り組む予定である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまで、利用者や家族の視点に立ち、本人が納得し安心感を持って入居が開始できるよう、柔軟な支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「自由に、のんびりと暮らせる」の理念を基に、利用者の生活暦を通して本人の思いを理解し、笑顔で支えあえる信頼関係を築くことに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、アセスメントのほか、日常会話や表情、行動などから利用者一人ひとりの希望や思いの把握に努め、介護記録にも記入して、職員間で共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時のアセスメントのほか、ケアマネジャーを中心に全職員でカンファレンスを実施し、家族の意向や希望を反映した利用者本意の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月に1度のユニット会議において、利用者一人ひとりの課題と目標を検討し、短期3ヶ月、長期6ヶ月の見直しを実施している。健康状態に変化が生じた場合は、現状に即した計画を随時作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているディサービスでのマッサージや入浴利用などを始め、病院への送迎など家族の状況や要望に応じて事業所の多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療は月2回あり、緊急時には24時間対応で、相談、指示が得られる。家族との合意形成を図りながら適切な医療支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、利用者が入居する際に本人、家族と話し合いを持ち、その時々家族、医師、職員と話し合いを重ね家族の気持ちに配慮しながら、慎重に取り組むを行なう方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を理解し、記録等の個人情報についての管理、保管の徹底が図られている。職員は利用者のプライドやプライバシーを大切に、一人ひとりの尊厳に配慮した対応を心掛けているが、十分とはいえない。	○	入浴時での付添者への希望と利用者の思いを伺い、「プライバシーを守ること」・「侵すことになる事とは」を常に考え、利用者を傷つけない、誇りを損ねない対応の徹底を図る取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立支援を念頭に、本人の願う暮らしやペースを大切にしながら、日々の生活スタイルを維持できるよう個別支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量や得意分野に応じて食事の準備や後片付けなど自発的に関わり楽しんでいる。朝・夕食は事業所内で職員が献立を立て調理しているが、昼食は1階レストランから提供されていて、事業所の特徴にもなっていて利用者にも好評である。	○	昼食は、レストランから提供された食事のため、利用者のみで職員は一緒ではない。事業所の特性を踏まえて利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりを前向きに検討される事を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望があれば毎日入浴出来る体制で支援をしている。一人ひとりに合った言葉掛けで入浴を促しているが、職員配置の関係で同性介助の要望実現には至っていない。	○	N0.20とも重複するが、入浴時での付添者の性別に対しては、利用者の希望を優先できるように職員のシフトの見直しを検討し利用者の尊厳に配慮した対応を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や家族からの情報を基にライフスタイルに合った役割や楽しみ事を作りだし支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子対応の専用送迎車を利用しドライブや散歩・買い物などの外出支援を行なっているが、日常化までには至っていない。	○	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出は貴重である。職員の対応策を検討し、年間の外出行事を含めた戸外活動の日常化を期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階がディサービス、4～5階がシルバーマンションで2～3階をグループホームとして活用している合同ビルの為オートロック式を使用しているが、管理者を始め全職員は施錠のない自由な暮らしの大切さを認識しケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を得て、火災発生を想定した避難訓練及び消化訓練を職員同士連携を取り、利用者と共に実施しているが、災害時での地域住民との協力体制作りまでには至っていない。	○	5階建ての2～3階が事業所である。大規模な災害に対応するための対策を、消防署・警察・地域住民が一体となり協力関係を築き、季節、昼夜などの諸条件を想定した避難訓練を実施する事を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者の嗜好を把握し、一人ひとりの食事摂取量や水分量を把握し、記録している。1日の摂取量が不足の利用者にはタイミングを図り補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット全体はバリアフリー構造で居室と共用空間は使いやすく繋がっている。事業所全体は明るく家庭的な雰囲気の中、清潔感が保たれている。訪問時はクリスマスの飾りつけが季節を感じさせ、温かみにあふれた居心地良い空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や生活用品が配置され、その人らしい空間を造り安心して過ごせる配慮をしている。		

※  は、重点項目。